

メーカー	Mercedes Benz
タイプ	W100 600pullman
年式	1,969
全長(mm)	6,240
全幅(mm)	1,950
全高(mm)	1,510
重量(kg)	2,770
エンジン	V型8気筒 SOHC
排気量(CC)	6,332
馬力(hp)	250

300シリーズが生産を終えると、1963年にまったく新しい600（W100）シリーズが誕生しました。すべての点で300シリーズを凌駕する600は、伝統の“グロサー・メルセデス”の血統を引き継ぐモデルであります。“600プルマン”は、ホイールベースが3900mmに伸び、全長は6240mmにも達し、しばらくの間はチェッカー・エアポートリムジン（米国）などの特種用途車を除けば、世界最長の乗用車でした。車重も2,640kgと当時としては非常に重い車でした。搭載されたエンジン（M100）は新開発の90°V型8気筒の6330cc（103×95mm）SOHCユニットで、メルセデスが90°V8レイアウトを採用したのはこれが初となりました。

車室内の装備品は考え得るもの、すべてが備えられているが、**特筆すべきは、トランクやドアの集中ロック機構のほか、一般的には電動モーターを用いるパワーウィンドウの機構にすべて油圧機構を用いていることです。**

600シリーズが目指したのは、プレスティジカーではなく、アウトバーンを高速で疾走できる能力を持つことです。主たる用途は高速移動手段、すなわちビジネスマンズ・エクスプレスです。そのために、信頼に足る正確なハンドリング特性と強力なブレーキを備え、**最高速度はリムジーンでは205km/h、プルマンでは200km/hに達しました。因みに、その後発売されるポルシェ911の最高速度が210 km/hであったことから、いかにメルセデス600が俊足であるかがわかります。**

1964年9月から販売され、1981年6月に生産を終了するまでの17年間に2677台を送り出しています。その内訳は、600が2189台、**600プルマンは429台**、オープンモデルのランドレーが59台でした。また、この中には43台のスペシャル・セキュリティ仕様（装甲仕様を示すのだろう）が含まれていることをダイムラーが明らかにしています。

ウエスタン自動車は1965～73年に70台を輸入し、ヤナセのネットワークを通じて販売されました。内訳は**600が61台、600プルマンが8台のほか、ランドレー1台**も含まれています。日本市場での初めての一般公開は、1965年秋に東京・晴海の国際見本市会場で開催された第7回東京オートショー（輸入車だけのショー）で、**1250万円**のプライスタグを掲げて展示されました。同じブースに並んでいたSクラスの250Sは350万円、230SLは430万円でした。日本の代表的な小型乗用車である**日産ブルーバード1300デラックスが65万円**ほどで販売されていた時代のことです。

現在、ご依頼を受け、内外装のレストア作業やエアサスペンションや油圧コントロールシステムなどの修理を実施している車両です。

【個人所有】